

新たな舞台へ向けて

植野 達郎

小柳先生とは10数年、ご一緒しているのですが、いろいろお話をするようになったのは、ここ数年のこのように思います。その理由の一端は、学科の先輩の先生方が退職され、気がつけば先生と私が一番年上になったことが挙げられます。先生とはほぼ同学年であったので、同じ時代の空気を吸っていたことが話をするきっかけになっていました。

それに加えて、先生のお嬢様が結婚され、お孫さんの世話を焼くなどの話を伺っていたことが、数年遅れて私が同じ立場に立った時に先生の経験談を聞くことがとても参考になったのです。親として子供を育てていた時と、孫と向き合う時の気持ちの違い、あるいは孫との関係の持ち方など、経験者だからこそ語れることが参考になっています。学生と接する時も同様なのでしょうが、たえず変化していく対象と関わりを持つことの大切さを教えられたという思いがあります。

近年はそれに加えて、人生のソフトランディングについても話を交わすことが増えました。定年より前に退職される決断をするまでに、ご主人といろいろ話をされたとのこと。長野にある薔薇園の手入れ、お孫さんとの時間、ご主人との時間など、健康である間になさりたいことが多々あるとのことで、悔いの残らない人生を送りたいという気持ちが伝わってきます。

体力と気力を考慮に入れつつ、新たな舞台へと歩み出す先生を見ていますと、チャレンジ精神を失わずに新たな世界へ歩み出すことを模索したいと改めて思います。先生とお話しすることで、多々学ぶことができたことをうれしく思います。ありがとうございました。

今後も機会がございましたら、是非お話を伺いたいと存じます。よろしくお願いいたします。